



## 民生委員・児童委員協議会において 「さあ始めよう、人生会議」を開催しました



7月29日(金)に、民生委員・児童委員協議会において、みやぎクリニックの宮崎 香理 医師をお招きし、講演会「さあ始めよう、人生会議～住み慣れた鳩山町で最期まで過ごすために考えよう～」を開催しました。

人生会議は、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の愛称で、「自分らしく生きる」ための話し合いです。宮崎医師からは、「人生の終末期を、どこで、誰と過ごしたいか、どんな医療を受けたいか、あなたが大切にしていること、好きなことは何かを、『私の意思表示ノート』に書いて、身近に置いておく」というお話をいただきました。

また、「年齢を重ね体調が変化することで、考え方も変わるものなので、自分らしい最期を迎えるために、元気なうちから、身近な人や医療やケアの関係者と、繰り返し話をすることが大切」ということでした。

参加者からは、「なかなか話す機会がなかったが、家族で話し合いたい」という声がありました。

なお、講演会で使用した『私の意思表示ノート』は、もしもの時のための医療等を選択し、記入しておける他、知っておきたい言葉の解説がついています。

地域包括支援センターの窓口を設置してあるほか、埼玉県医師会のホームページからダウンロードできます(『私の意思表示ノート』で検索)ので、ご利用ください。

■問合せ 町地域包括支援センター  
☎ 296-7700

## 町内でとれた粘土を使い 「焼き物づくり体験」を実施しました

7月5日(火)～15日(金)、28日(木)、29日(金)、30日(土)に、多世代活動交流センター内で、町内でとれた粘土を用いた「焼き物づくり体験」が実施されました。

体験は、新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、初級・中級コースと上級コースに分かれて実施しました。初級・中級コースでは古代の食器(須恵器)、コップやミニ瓦、上級コースでは中型の甕や壺を作りました。

7月29日(金)の初級・中級コースでは、夏休み期間ということもあり、小学生も家族と一緒に大勢参加していました。町教育委員会、文化財保護・町史担当職員やボランティアの方の説明を受けながら、ミニ瓦やコップなどを楽しそうにそれぞれ作っていました。

制作された皆さんの作品は、農村公園内「まつぼっくり」隣の復元古代窯で10月13日(木)から16日(日)にかけて「焼成実験見学会」を実施し、焼き上げる予定です。見学会の詳細は、広報はとやま10月号及び町ホームページなどでお知らせします。

■問合せ 町教育委員会事務局 文化財分室  
☎ 296-3862



▲初級・中級コースでは、大勢の家族が楽しく、焼き物づくりを体験しました。



▲上級コースで制作された甕・壺など



▲初級・中級コースで制作されたミニ瓦

## 「ハトミライ☆プロジェクト」 ふくしまさくらの手入れ作業 等を行いました

ハトミライ☆プロジェクトは、県立鳩山高等学校の生徒が地域活性化に貢献するため、町と共催で桜の植樹を行うプロジェクトです。桜は、東日本震災復興ボランティア活動で縁のある福島県の苗を使用しています。

生徒たちは、「東日本大震災からの復興を願う」とともに、「30年後に地元鳩山を桜の名所へ」という目標を掲げて、2018年から継続して取り組んできました。

このプロジェクトの一環で、植樹した“ふくしまさくら”の手入れ作業を、7月21日(木)に泉井交流体験エリアと地球観測センター内の2か所で実施しました。

泉井交流体験エリアでは、令和3年3月25日に植樹した八重桜1本、河津桜9本の、地球観測センター内では、令和2年3月25日に植樹した八重桜1本、枝垂桜2本の、周辺の手入れ作業と支柱の交換が、鳩山高校の生徒会により行われました。

参加した11人の生徒たちは、真夏の日差しの中、汗だくになりながら、また、鳩山高校の教職員の指導のもと、慣れない支柱の交換に戸惑いながら、自主的に手入れ作業を行っていました。

泉井交流体験エリアや地球観測センターに立ち寄った際は、順調に育つ“ふくしまさくら”をぜひご覧ください。



▲泉井交流体験エリアでの手入れ作業と支柱交換の様子



▲地球観測センターの“ふくしまさくら”は3mほどになり、倒れないように改めて支柱で補強しました。生徒たちが地域活性化に取り組んでいます。

## 今宿地区で伝統の祭囃子の奉納が行われました



▲獅子が頭をかむのは、その人についている邪気を食べる  
▲3年ぶりの祭囃子に、保存会の皆さんは、6月から練習を重ねたとのことでした。

7月24日(日)、今宿八坂神社の夏季例大祭で、八坂神社祭囃子保存会の皆さんにより、祭囃子が奉納されました。新型コロナウイルスの感染予防対策から、24日の午前中のみという、規模を縮小しての実施となりましたが、3年ぶりのにぎやかなお囃子の音色と、迫力のある舞で、集まった人々の顔には、笑顔が浮かんでいました。

300年以上の歴史を持つこのお囃子は、京都祇園囃子の流れを汲む「祇園ばやし」「屋台」「仁羽」などの曲目があり、無病息災などを願い始まったとされます。町指定無形民俗文化財に指定されており、7月の今宿八坂神社の例大祭で、脈々と次世代へ受け継がれています。